昔ハ當社ヨリ頒曆アリテ、ソノ頃推歩ノコトヲ司リシモノハ、北原村ノ名主喜兵衛ガ先祖齋藤氏ナリシトイヘド、其顚末ヲ詳ニセズ、世ニ傳フ、一年豆州三島曆ト、武州大宮曆ト、閏月ノ違ヒアリテ、北條氏政ヨリ、安藤豐前守ニ命ジテ、糺明セラレシガ、三島曆ノ方正キニ極リ、ソレヨリ武藏ノ曆ヲ停止セラルトコレニ據レバ、天正ノ頃マデハ、猶曆ヲ出シタルコト知ラル、

薩摩曆

〔府内備考十三淺草〕一薩州に限り賴朝公より、遠國の事故曆役差添被下由にて、今に至て、曆役之者、曆法傳授請候上にて、彼地にて、曆面仕立板行す、尤領主及び重役の者計國曆を用ひ、國中一統は、伊勢よりの賦曆を用ゆるよし、

右薩州曆を加へて、都合五十種なり、

盲曆

〔東遊記後編一〕蠻語○中略

南部の邊鄙にては、いろはをだにをらずして、盲曆といふものありとぞ、余が通行せし街道にはあらねども、聞しまゝを志るす、又般若心經などをも、めくら曆の法にて誦すると云、

〔笈埃隨筆四〕伊呂波○中略

狹布（ケフ）の里は、今南部領なり、其府を離れし山隘の村民、文字を志らぬ故に、年々の曆日、農の爲に、村長より曆を繪に圖して作る事を志らしむ、月朔の十二支には、子は鼠、亥は猪を圖し、八專、入梅、二至、三伏の、其たとへたるは、宛も謎の如し、其内、一二をいはん、八十八夜は、重箱に矢の立たるなり、種蒔は春を畫き、田刈吉は鎌なり、節句は鬼の泣圖あり、絶倒ノ限り、たゞ且佛事祈禱には必ず般若心經を讀誦す、是又盲曆に類して、一段おかしく、頤を解にいたる者なり、

曆注

〔運歩色葉集地〕中段。曆、滿、平、定、執、破、危、成、收、開、閉、建、除、

〔唐六典十四太常寺〕凡曆注之用六

一曰、大會、二曰小會、三曰雜會、四曰歲會、五曰除建、六曰人神、

〔和漢運氣指南後編〕十二直之事

十二直ハ、和漢共ニ曆ニ記ス、尤舊シキ例ナリト見エタリ、毎日支干ノ下ニ記スガ故ニ、和俗曆ノ